

ふるふる 故郷

故郷は、誰の心の中にもある懐かしい場所。

幼い頃の思い出、家族との団らん、

初恋や友情、受験勉強の日々……。

緑あふれる田舎でも、家々が密集した都会でも、

自分が生まれ育った故郷での思い出は、かけがえのない宝物です。

今号では東京から離れた地域を中心に、

故郷の魅力や価値に迫ります。

あなたの故郷はどこですか？ 慶

應義塾大学の学部にはおよそ2万9千人の塾生が在籍し、それぞれの故郷から学びにきています。出身高校の所在地別割合は【表】の通りで、首都圏（1都3県）からの進学者が72%超のトップとなっています。これはそもそも首都圏の人口が多いことに加え、義塾一貫教育校の全てがこの地域に含まれることも大きな要因のひとつです。

しかし、数の上では偏りがあるものの、個別に見てみると実にさまざまな地域から塾生が集っています。

【表】学部学生の出身
高等学校所在地別割合

北海道・東北	2.8%
北関東	4.0%
首都圏	72.5%
甲信越	1.9%
北陸	1.1%
東海	5.6%
近畿	4.2%
中国	2.3%
四国	1.4%
九州・沖縄	4.2%

留学生、海外の学校出身者等を除く。
2011年7月現在

「保護者の住所＝実家」とは限りませんが、北は北海道豊富町（稚内市の南隣）、南は日本最西端の島・沖縄県与那国町に保護者の方がお住まいなので、ほぼ日本の端から端まで塾生の故郷が存在することになります。そんな、首都圏以外の各地から進学した塾生に、我が故郷の魅力を聞いてみました。

われらがお国自慢

私のふるさと

塾生
は語る



文学部3年 あいば 薫君

大阪府豊中市

いちばんの自慢は「人」
大阪人は、面白くてパワフル

何が自慢って、大阪の自慢はとにかく「人」です。明るくて、気さくで、面白くて、そしてパワフル。「苦境に立っても負けへんで」という底力があります。その核になっているのは「笑い」のセンス。だからウケようと言ったことがスベつたら、激しいバッシングの嵐に遭うことも(笑)。もう一つの自慢は「水の都、大阪」。水の都というトベニスが有名ですが、これほどの大都市で中心部が川と運河に囲まれている街は、世界的にも珍しいと思います。それを満喫できるのが「天神祭」。花火が美しく映る川を、たくさんさんの提灯を掲げた船が行き交う船渡御は、幻想的かつ華やかな水の都ならではの祭りです。

海と山に囲まれた田園地帯を
清流、高津川が流れる



理工学部 1年 石川裕之 君

島根県 益田市

島根県西部に位置し、日本海に面する人口約5万2千人の益田市が僕の故郷。海と山に囲まれて、のどかな田園風景が広がる地方都市です。

美しい自然はすべて自慢ですが、中でも日本有数の清流、高津川は市民の誇りです。あれは中2の夏休みのこと、サッカー部の練習を終えて、仲間とともに橋の上から次々に高津川に飛び込みました。水面まで約10メートル、ビビりながらも飛び込んだ水のなんと冷たくて気持ちよかったです。流れに身を任せたり、逆らって上流に泳いだり……懐かしい思い出です。

リタイアしたら益田に戻って、自然に囲まれて暮らしたいですね。

工業都市から環境都市へ
星空が美しい



商学部 2年 崎長 翔 君

福岡県 北九州市

1963年に門司、小倉、戸畑、八幡若松の5市が合併し、一気に100万都市となった北九州市は、広い。自宅から同じ市内の高校まで1時間かけて通っていましたが、地元で使う「とても」という意味の「でたん」が、高校では通じませんでした。

かつては製鉄などの重工業地域でしたが、それゆえに環境意識は高く、今は東京より断然空気がきれいで、星がよく見え、皿倉山からは「100億ドルの夜景」が楽しめます。その他、「門司港レトロ」や「スペースワールド」なども人気スポットです。また地元グルメの宝庫で、特に学校帰りによく食べた「とりかつ丼」はおススメです。

協力：全国慶應学生会連盟 <http://zenkei1858.web.fc2.com/>

全国からより広く塾生を迎える「学問のすゝめ奨学金」と「法学部FIT入試B方式」

今年、義塾は多様な地域性を背景とした優秀な塾生をより多く迎えるべく、新たに2つの取り組みをスタートさせます。

「学問のすゝめ奨学金」は申し込みと給付の可否決定が、一般入学試験の前に行われる予約型奨学金です。首都圏の1都3県を除く43道府県を6つのブロックに分け、各ブロックで給付人数を設定し、地域の偏りを排除することが特徴です。人物および学業成績が優秀であるにもかかわらず、経済的理由で義塾への入学に困難を来している受験生に対し、経済支援を行うことを目的としています。2012年4月入学希望者の申請締め切りは10月31日となっています。

「法学部FIT入試B方式」は、従来の法学部一般入試A方式（センター試験利用）に代わって導入された自己推薦入試です。全47都道府県を同じく6つのブロックに分け、各ブロックから法律学科・政治学科それぞれ最大10名程度を募集します。慶應義塾大学法学部での勉学を強く希望する優秀な学生をさまざまな地域から迎えることを目的とし、今年9月、2012年4月入学に向けて初めての選考が行われました。

※詳しくは「慶應義塾大学 学部入学案内」で検索の上、Webサイトをご覧ください。

こんにちは
先輩

故郷で見つけたもの

義塾で学んで、 ふるさとで活躍

義塾の卒業生には故郷で活躍している人が多くいます。

東京に残って働く道も考えたが、最後には故郷である宮城県栗原市の職員を選んだという鈴木学君の「ふるさとへの選択」についてお聞きしました。



宮城県栗原市役所 企画部企画課調整係
鈴木 学 君

1992年文学部卒業（美学美術史学専攻）。合併して栗原市になる前の築館町役場に就職し、通常業務の他に合併調整に携わる。東日本大震災後には、沿岸部の被災地を救援に来たイスラエル医療チーム約50名のサポートを担当。

私の職場は宮城県栗原市の市役所です。人口は約7万人、私の故郷でもある地方都市です。いまは地域の方たちの生活を守る仕事にやりがいと喜びを感じていますが、義塾に入学した頃には、故郷に帰って市役所で仕事をすることにになるとは、思ってもみませんでした。

音楽や映画、写真が好きで文学部に入りましたが、具体的に何になろうとは考えていなかった気がします。ただ当時はバブル時代、東京を自分の庭のごとく自由に行動する塾高出身の友達と一緒にあって、大都会「TOKYO」を思い切り楽しんでいました（笑）。

そして学生かたわら、情報サービス会社の契約社員として働き始めました。企業の求人ビジネスに関わり、プランを考えたりポスターを制作したり、ワ

クワクする面白い日々でした。仕事ぶりが認められ、社員になるように誘われもしました。ただ、成果のみを価値基準に突っ走ることに、どこかで疑問も感じていました。

そんなときに故郷の栗原に帰る機会があり、豊かな自然と穏やかでのんびりした人たちに接して、なんとなく「生きていくのは、東京でなくてもいいんだ」と思ったのです。町役場が大卒を募集していることも知りました。

東京暮らしに疲れていたわけではありません。契約社員とはい



え仕事は順調でしたし、そのまま就職して、その後に起業するのもいいかなとも考えていたのです。でも、それが本当に自分のやりたいことなのか、確信が持てませんでした。

東京の会社と地元の町役場のどちらに就職すべきか悩んでいた私にきっかけをくれたのが、ゼミでお世話になっていた前田富士男先生の「どのような人生を選ぶにしても、君の魂が傷つけないことが大切」というアドバイス。進路の選択を前に自分の根源にあるものが何かと真剣に考えられたのは、先生の重みのある言葉のおかげだと思います。そして、成果至上主義とは離れた環境で人とつながることこそが、私にとって大切なのだと自覚し、東京ではなく栗原を選択したのです。その後、幼なじみからは「なぜ何もない町に帰

東京か地方かで就職に悩む人は多いと思います。しかし重要なのは場所ではありません。東京で就職する必然性があるのならいいけれど、東京にいればなんとかなる、という考えはやめたほうがいい。また、故郷はその年代で

「おはよう、元気ですよ」と会話ができ、生活に必要な物資を届けるシステムがつくれたら、なんて思っています。

先の話ですが定年後は、行政ではないソーシャルサービスをやってみたいですね。たとえば一人暮らしの老年寄りが毎朝端末のタッチパネルのボタンを押すだけで、画面を通じてサポートする人と



いいし、もっと住みよくなる要素もたくさんあります。

「つてきたのか」と言われましたが、後悔したことは一度もありません。選択の責任は自分で負うものですし、後悔しないようにするのはその後の自分次第だからです。それに栗原は何もない町ではな

居心地が変わってくるもの。高校時代までは煩わしさばかりを感じたとしても、年を経て自分と周囲の関係を理解できるようになると、印象や居心地はまったく変わるはず。故郷を受け入れ、故郷で生きることが、ひとつの意義ある選択ではないかと考えています。

地方を選ぶにしても、東京を選ぶに

Column
銀座・有楽町・日本橋には
「ミニ故郷」がいっぱい



●北海道・東北 ●関東 ●中部 ●近畿 ●中国 ●四国 ●九州・沖縄 ●全国・その他

自分にゆかりのない土地をふと訪ねてみたくなったけれど、ここは東京……。遠く地方まで足を延ばすには、どうしてもまとまった時間が必要です。

では、気軽にアンテナショップ巡りなどはどうでしょう。銀座・有楽町、日本橋エリアには、約40店舗のミニ故郷があります。それぞれの地方色に彩られた店内には、地元の名菓や銘酒、お土産の品々、観光ガイド、マップなどがズラリ。中にはレストランや居酒屋を併設し、本格的な郷土料理をいただける場所もあります。このエリア以外にも、池袋に宮城、浅草に北海道のお店といったように、東京にはさまざまなアンテナショップがあるので、ぜひチェックしてみてください。

しても、自分が楽しいと感じられる仕事を見出すことがもっとも大切なのだと思います。



栗原市役所

義塾で学ぶ子への想い

故郷から我が子へ

遠い近いの差こそあれ、義塾には家族や友人が暮らす故郷を離れ、一人暮らしや寮生活を送る塾生が多くいます。今回は北海道と長野県から我が子を見守る保護者の方に、メッセージを寄せていただきました。

東京で広い視野を培ってほしい

文学部1年 小林理恵君（北海道沙流郡日高町出身）保護者

小林敏哉さん

東日本大震災によって大学の入学式が延期になるなど、3月中に転居先は決めましたが、いつ引越したらよいのか情報が集まらず、娘にとってはおわただしい春が過ぎていきました。それでも4月末には授業が始まると連絡があり、半年たった今では落ち着いて暮らしているようです。

ところで、北海道というのは全国的に見るとちよつと変わったところのようで、結婚式や葬式のしきたりは有名なところですが、道民の心の中には「東京よりも札幌」という意識がどこかにあります。地続きの安心感とでもいうのでしょうか。我が子の卒業した高校の進学先もその多くは札幌市内であり、慶應義塾に進学した娘は少数派に属することになりました。同学年の何人かは東京の大学に進学していますが、仲の良かった子はみんな北海道内に進学したようです。当初は新しい環境で友人関係をうまく築けるかと心配しましたが、娘からは複数のサークルに参加しているとの電話を受け取り、杞憂だったようです。

親の願いは、せつかく東京で暮らすのですから、大学4年間くらいは自分の目でものを見、自分の頭でものを考え、広く社会を見聞し豊かな人格を形成してほしいということです。しかし、いつもうまく事が進むわけでもありません。失敗があるから成功の喜びがあります。健康に気をつけ、自分の力を試す4年間にしてほしいと切に願っています。

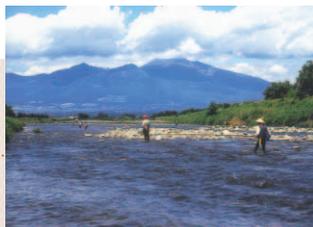
北海道沙流郡日高町

人口：13,741人（2011年8月末現在） 面積：992.67 km²

北海道の中央南部に位置する日高町は町域が大きく2つに分かれた飛び地の町です。沙流郡平取町ひらとりに間に挟み、太平洋に面した南側の門別地区と、日高山脈がそびえる北側の日高地区から構成されています。厳しくも豊かな自然の恵みをうけ、農業、水産業、林業のほか、畜産業も盛んで、特に馬産の町として知られています。



千曲川での鮎釣り (写真提供: 佐久市観光協会)



長野県佐久市

人口: 100,809 人 (2011 年 8 月 1 日現在) 面積: 423.99 km²

- 長野県の東部に位置し、群馬県と接する佐久市はレタスやキャベツなどの高原野菜の産地として有名です。中央を千曲川が貫流し、北に浅間山、南に八ヶ岳を望む自然豊かな街でありながら、市内の長野新幹線佐久平駅から東京までおよそ 1 時間 20 分と、首都圏とのアクセスは良好。上田市に次ぐ東信地方の中心として存在感を高めつつあります。

出会い、そして感謝

法学部3年 櫻井敦祥君 (長野県佐久市出身) 保護者

櫻井友一さん

私の息子は長野県東部に位置する佐久市 (旧白田町) に生まれました。空気が澄み、星が大変美しい所です。小学校の頃は、自然に恵まれた裏山で仲良しの友達とともに遊び、冬になると、スピードスケートクラブで心身を鍛えていました。日の出前、氷点下10度を下回る厳しい寒さの中での練習、また吹雪の中、大会に参加したこともありました。親子で氷上上がることで苦しみの中にも喜びを感じていました。無我夢中でしたが、楽しい日々でした。

そして、中学、高校進学といろいろな思いを持ちながら思春期を迎えたのでしょう。高校では、担任の先生や先輩との大きな出会いがありました。先生は、子どもたちの自主性を重んじてくださり、息子ものびのびとした学校生活を送ることができました。また、山岳班に入部し、良き先輩にも恵まれ、充実した日々が送れたようです。

慶應義塾大学への進学に際しては、親元を離れて生活できるだろうか。病気の折にはどうするのだろうか。そして、将来の進路は? しかし、その不安はあるにせよ、決めていくのは本人であろうと思います。今、親として言えることは、大震災における私たちへのメッセージを受けて「私たちが失いつつある人と人との関係を創ってほしい」「相手のことを考え大切にし、感謝する心を忘れてほしくない」また、「自らを開拓するエネルギーを持ち続けてほしい」ということです。私たち家族は以上のことを願いつつ見守り続けたいと考えます。